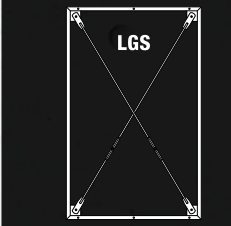


Theme

情報発信スペースを前面に出した 整備工場×ショールームが 生む楽しい日常

某大手メーカーの宣言以来、エンジン自動車のカウントダウンが始まり、
自動車整備工場という存在は、変革期を迎えつつあります。
しかし、デイトナハウス的には、むしろそこに楽しい可能性がありそうだと思うのです。



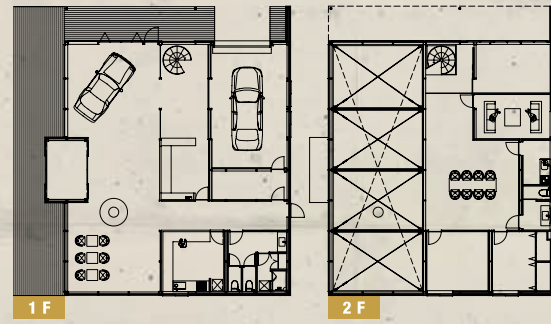
ショールーム空間内部には、適切に木製の壁などをあしらって、さらにインナーグリーンを多く配置する予定です。植物由来の優しい素材と艶消し黒のLGS鉄骨のコントラストは居心地最高です。その空間に、テーマ性のはっきりした車両を展示販売します。傍らにはらせん階段。空間のメリハリを作り出してくれる現代の大黒柱。その壁の向こうには、整備やレストアの完了したクルマの受け渡しスペースがあります。ですので、女性や子供でも馴染みやすい場所になっています。

CGの奥に見える白い建物は既存の整備工場棟です。その付属施設として今回ショールームを充実させて、WEBやSNSでの情報発信を積極的に的に行う計画なのです。カフェやアウトドアショップも併設するので、業態のイメージ自体が変化していきますね。



FLOOR PLAN

ファサード壁面はデイトナハウスの特長である、スチールサッシが惜しげもなく展開されており、パウハウス的な20世紀前半の空間イメージ。しかし、単に奇をてらった「レトロ」主義とは正反対のものです。そのままでは味気ない合理性ばかりを追求した近代に「人間味」や「可愛げ」を見出す。しかもそれに加わるのはクルマ好きの世界観。だからこそライフスタイルが色濃く反映されたこの空間は、なおさら特別な場所になるのです。1Fにはクルマの受け渡し室やカフェの厨房。2Fは事務所機能で構成されています。



INFORMATION LDKinc.

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんだこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田 敦士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com

型ショールームが併設された実際例をご紹介します。
この場所には、しっかりとれた整備施設を配備しています。道路際に引きがあり、そのスペース内に情報発信機能のショールームをLGSシステムで建築する訳です。毎日クルマの皮をひん剥いて、イジクっている人たちは骨格と表皮で、モノができていて、実は骨格こそが大切だとよくわかっています。そんな観点で骨格主義建築のデイトナハウスが、自らの情報を集積して、人が集まるスペースをテーマに設計しています。
1Fは豊かな吹き抜けのショールーム。ここではクルマ以外に、アウトドアグッズや自転車など、ジャンルを問わず、豊かな生活をイメージさせるアイテムを販売するセレクトショップを併設。長い時間滞在できるカフェもありますので、パソコンを片手に、ここを居心地のいいカフェとして利用するのもありです。もちろんピットに足を運んで、愛車が整備される姿をじっくり観察するのもよし。つまりここをベースに、整備工場とクルマ好きの楽しい双方向通信をエンジョイすれば良いのです。

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk), Soma YOKOI

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分りやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

